

一装備報告一

大嶋通弘

今回の合宿は長期であり、装備はコンパクト化、軽量化に重点を置き、最小限の装備しか持たなかつた。そのため、前回まで使用していた防水袋等の改良装備が生かせなかつたのが残念であり、改良の点でも不十分であったと思っている。

◇破損とその修理◇

ファルトポートの破損が非常に多かった。その多くは、接合部の貧弱さから来るもので、数日間水に木部が浸っているため、直接木材を止めてあるリベットが抜け落ちるのである。力の加わる部分が特に抜け易く、応急には針金で開閉が可能なようにしておいた。この点は数枚の座金をはめ込むことで解決するものである。もう一つは、金具自体の弱さである。余り丈夫な取り付けが成されておらず、ハードな使用に備えての修理をしなかつたことを反省している。ゴムポートは、主にパンクの修理である。小さな穴の場合は問題はないのだが、気室の半分の幅に達する裂傷には従来のような表面からのボンド修理では不完全であり、内部より薄いゴム1枚、上部より薄いゴムと普通使用するゴムを重ねて貼り付けた。これは非常に困難な作業であり、完全な修理は不可能であった。一度、水に弱いボンドG17のかわりに、ラバーセメント（ゴム自体を溶かして接着させる）を使用したのだが、以外なことに全く接着しなかつた。ポート接合部はラバーセメントが使ってあると思っていたのだが、これはどうも納得し難い。接合面での破損が特に東洋ゴム製のポートに多数見られたが、これは前記の方法で処理した。次に、栓からの空気もれがアキレス製ポートに見られた。かなり著しいものであったのでゴムを巻きつけたり、はめ込んでみたが栓の受けの部分がプラスチックで作られており、その部分が変形し、たえず隙間のある状態であった。空気もれの度合は少なくできたが、この修理はできなかつた。次に、ポンプの件である。現在使用のポンプはフイゴ型で2枚の板をゴムで貼り合わせた物である。しかし、このポンプも非常に水に弱く、ゴム面の損傷が多いため、今回は途中で完全に使用不可能となつた。そのため、甲府で小田原提灯型のプラスチック製ジャバラのポンプを購入する結果となつた。後者は内部にバネを取りつけた物で、水に強く、容量も前者とほぼ等しく、以後非常に重宝した。

◇今後の装備としての改良、試行◇

今回はコンパクト化の一つとして、オールを分解した。分解という考えは、正にコンパクト化をする上では必要な作業である。例えば、パッキングケースを作る上でも、この考えを利用して行こうと思う。数本のフレームで箱の基本型を作り、すべての装備をフレームをゴムで覆って完全密閉したケースに入れようとの考え方である。蓋をとりつけ、出し入れが容易にする必要もある。この延長として、このフレームをポート自体にはめ込み、オーリング可能なポートにもして行こうと思う。気室との関係もあるが、完全に気室を包み込んだ状態にすれば、これも可能である。ファルトポートに対しては、かなり改良せねばならない。製作の段階で、座金を入れたり、木部の補強、フレームの補強をする必要が普段使用する際にも必要となる。更に、ゴムポートの接合法、接着剤も研究しなければならず、今後の新しい考え方方に伴い、一層多くの改良、試作、そして試行が要求されることと思うし、されねばならぬ事である。

団体装備リスト

品 目	数量	重量kg	品 目	数量	重量kg
ゴムボート(アキレス)	1	1.6	天気図用紙(両面)	1.5	0.2
〃(東洋ゴム)	1	1.5	地図(富士川・甲武信 信濃川)	3	0.2
ファルトボート	2	2.8	コンパス	1	
帆 布	1	9	記録ノート	1	
ポンプ	2	2	撮影器材(8ミリ・ニコノス ミノルタ)		5
ザイール(9mm×20m)	2	5	カラーフィルム(スライド)	1.5	
ポート用ザイル	2	2	白黒フィルム	1.0	1
エアーマット	2	2	8ミリフィルム	1.0	
ライフジャケット	7	3	総 重 量 129.2kg		
ヘルメット	7	2			
オ ー ル	8	1.2			
肥 料 袋	20	1.5			
ボ リ 袋	20	0.5			
修 理 具(ボンド・ゴム)		0.5			
ボリタン(10ℓ・2ℓ×2)	3	0.2	下 着(上・下)	各 1	
ガスボリ(ガソリン2ℓ)	1	2	ニッカズポン・半ズポン	各 1	
テント(グランドシート ポール・ペグ)	1	8	靴 下(ニッカホースを含む)	3	
コッヘル	1	1.5	海水パンツ	1	
ホエブス	1	2	帽 子	1	
バ ー ル	1.6		サングラス	1	
ブ キ	9		靴		
木杓・玉杓・庖丁・タワシ	各 1	1.5	シュラフカバー	1	
洗 剤	1	0.5	キスリング	1	
ローツク	1.0	3	エアーマット	1	
ナ タ	1		雨 具(カッパ上)	1	
ボンチヨ	3	0.6	ヘッドランプ	1	
背 負 子	2	4	マッチ	適	
細 引 き(10m)	1		チリ紙	適	
ラ ジ オ	1	1	タオル	1	
			学 生 証・学 割		
			計 画 書・筆 記 具		
			金 銭		

個人装備リスト

品 目	数 量
下 着(上・下)	各 1
ニッカズポン・半ズポン	各 1
靴 下(ニッカホースを含む)	3
海水パンツ	1
帽 子	1
サングラス	1
靴	
シュラフカバー	1
キスリング	1
エアーマット	1
雨 具(カッパ上)	1
ヘッドランプ	1
マッチ	適
チリ紙	適
タオル	1
学 生 証・学 割	
計 画 書・筆 記 具	
金 銭	

一食糧報告一

西口進三

今合宿はすべて現地購入でまかなかった。計画の段階では2日置きぐらいの割合で購入する予定だったが、どういうわけか毎日購入することになった。富士川においてサポート隊が食糧なしの状態で荷の重さがひじょうに重かったので少しでも軽くという気持で。昼食もパン等を買っていたがこれはたいへん高くつくので、時たま朝、飯を炊いてそれをコッヘルにつめていたが、荷物がひじょうに重くなるとの訴えがあったのでほとんどパン等を買ってすましていた。酷暑、酷熱のもとにおける1日の行動に対して3食以外に行動食を全合宿中出さなかったのは、大きなミスだ。富士川では途中アイスクリームやコーラを毎日のように買っていたが、一時的に暑さをまぎらわすのには、いいかもしれないがもう少しカロリーのあるものを行動食にするべきだった。冷たいものは胃腸をあらすからよくない。沢においての食糧は、1人30kgぐらいという荷物の制限があったので、極力軽くした。3日間の我慢だという気持で。千曲川、信濃川においては、みんなかなりの空腹感を味わっていたようだ。しかし、この狂乱物価の時勢において平均1人1日400円で満足してもらうには至難の技だ。食糧をボートにのせるには食糧なしの段階ですでにいっぱいだったので、完全防水の食糧用パッキングを用意していなかったので、これも毎日の購入に頼った。昼食は連日朝米を炊いて、それをコッヘルにつめたものと、ふりかけだけだった。腹は一時的にふくれるがカロリーがない。後半の2週間は朝晩と米ばかり食べていたようだ。特に一部から昼が单调すぎると批難を浴びた。実際朝と昼は毎日同じものを作っていた。これは、私の食糧に対する姿勢の問題だ。つまり少しでもおいしいものをみんなに食べてもらおうという姿勢がなかつたのだった。この姿勢に対してのちにかなり批難を浴びた。本人も自己批判している。それからさきに述べた食糧用の完全防水のパッキングをしなかったために調味料などが濡れてしまった。かなり不潔さが漂っていた。現地購入においては、何しろその日のキャンプ予定地がはっきり決っていないので、はたしてそのキャンプ地の近くに店があるかどうか。つまり、店があるような町によってキャンプ地が決められるということにもなるのである。しかし店が遠くにあって食事時間がひじょうに遅れたり、店がたいへん小さかったりしてこちらのほしい物がなかった。計画書に書かれている食糧計画の献立通りにはいかないのである。だいたい小さな町の小さな店にこちらが立てた献立の材料があるという保証がないのにあの計画を立てたこと自体に安易さが漂っていた。現地購入一本でいくなら食糧計画などいらないのだ。事実半分くらいは無視され、その日の店にあるもので決めていた。田舎の店にはこちらがほしいと思う物がなかなかない。コカ・コーラだけはどこでも売っていたが。日本のコカ・コーラ化は完全に完成されている。計画書の段階では、一応現地の店にその材料があると見込んで計画を立てたが、都市の店の感覚で立てた時点でもちがっていたようだ。また田舎の店にあるものは、だいたいどこでも同じようなものしか売っていないので、同じもののくり返しが多かった。1ヶ月もの長い間だから、できる限り努力したが、どうしても同じものがでてくる。大きな都市などのときは、希望をつのって献立を考えみんなに満足してもらうように努めた。毎日現地購入での合宿には、かなりの問題点があるようだ。

—医療報告—

伊藤好保

今回の合宿は今までになく長期で、かつ川下りのみでなく、沢登りなどもあり、事故や病気などが心配されたが、野村隊員の事故があったことを除くと、無事におわれた。

野村隊員の事故であるが、事故状況は彼の残念記で詳しく述べられているので略する。応急手当として、ヨードチンキで数回消毒をし、化膿止をぬりホータイをしたが、出血がひどいため医者にみせた方が良いと判断し、救急車を呼び病院に行った。結局2週間ほど合宿からはなれる事になったが、あの処置はあれで適切だったと思う。

内用薬は使用が少なかったが、外用薬は予想以上に使用した。サビオ、ムヒなどが、かなり不足したが常に購入場所が近くにあった為に不自由はしなかった。その他、初步的なミスが多かったように思われる。色々な理由により購入がおくれ、その為に量が多くなり、今回の合宿の方針が『荷物を最少限にとどめる』というのにもかかわらず、タッパの大きいのを使用するはめになった。そして千曲川の中流（長野県立ヶ花）では、パッキングミスによりタッパをぬらしホータイ、ガーゼなどを使用不可能にしてしまった。これも医療というものへの考えが甘かった為におこったものと思われる。

今後はそういった事のないように、医療について勉強し慎重にやりたいと思う。

—会計報告—

谷口喜勝

収入	支出	備考
隊員負担 175,000	食糧費 101,500 交通費 14,000 医療費 8,700 装備費 13,500 雑費 16,700 8mmフィルム費 10,600 8mm現像費 10,000	大阪駅から富士駅 2000×7 (急行指定席、学割、片道料金) ポンプ、ザイル、地図、修理道具等 治療費、電話等
計 175,000	計 175,000	

なお、読売新聞社よりフィルム及び現像費の援助、また、ピクター・ファルトビアよりファルトボート1台（8万円相当）を寄贈していただいたおかげで、だいぶ経費の削減がおこなわれた。

また、合宿終了後マスコミ関係及びOBより多くの助成金をいただきました。それは、報告書作成費ならびに今後の活動費として使用させていただきました。